

令和 7 年度 事業報告書
社会福祉法人齐慎会 本部



社会福祉法人 齐 慎 会

〒438-0026 磐田市西貝塚 2111 番地 I

<http://www.saishinkai.or.jp>

1 法人概要

法人名称 社会福祉法人 斉慎会（平成 14 年 2 月 28 日設立）

主たる事務所 〒438-0026 静岡県磐田市西貝塚 2111 番地 1

理事長 早野 雄二郎

理事 南 貴晴 早野 いく子 野崎 正蔵
山崎 俊洋 小川 正信 成田 将史

評議員 大石 和男 後藤 秀雄 杉田 誠
後藤 久二 大場 正子 青木 勝良
小幡 洋子 森 正明

監事 名波 公彦 山本 和弘

事業の種類 1. 第一種社会福祉事業
(1) 特別養護老人ホームの経営
2. 第二種社会福祉事業
(1) 老人短期入所事業の経営
(2) 老人デイサービスの経営
3. 公益を目的とする事業
(1) 居宅介護支援事業

2 基本理念

私たちは、お客様の尊厳とその人らしさを守り、活力ある生活を支えるために、質の高い介護サービスを追求します。

その成果として得られる評価や収益を職員に還元しつつ、地域福祉の推進と、職員とともに発展する持続可能な法人づくりを目指します。

3 基本方針

1. 5 S（整理・整頓・清掃・清潔・接遇）を大切に、安心できる環境をつくれます。
2. お客様の人となりを知り、その方の思いに寄り添います。
3. 専門性を磨き、質の高いサービスを追求します。
4. 地域とともに歩み、地域福祉の向上に努めます。
5. 多様性を尊重し、互いを認め合います。チームを支え、助け合う文化を大切にします。

4 法人運営の状況

令和7年度は、全国的に物価高騰と人材不足が一段と進行し、介護・福祉の現場にとって厳しさが増す一年となりました。令和6年度の介護報酬改定は1.59%プラス改定であったものの、米をはじめとする給食材料費の高騰、電気・ガス等の光熱費の上昇に加え、修繕や設備の更新に要する費用、最低賃金の大幅な引き上げ（静岡県では1,097円、前年比6.09%増）、さらにはサービス業全体における賃金水準の上昇などにより、実際の経営環境は改定効果を上回る負担増となっており、介護事業の運営は様々なコストの増加に悩まされています。特に最低賃金の上昇は、飲食業や小売業、物流業など他産業の賃金水準を押し上げる要因となり、介護分野における人材確保競争をさらに激化させています。

こうした状況の中で、令和7年はいわゆる「2025年問題」の節目の年を迎え、日本国民の5人に1人が後期高齢者となり、今後は介護ニーズの更なる増加や社会保障費の増大が見込まれています。厚生労働省は、重度の要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる地域包括ケアシステムの構築を目指すなかで、将来的に介護人材が約30万人不足すると試算しており、人材の確保は福祉介護における全国的な最重要課題となっています。加えて、生活困窮者支援の需要増加や障害福祉サービスの利用者の増加など、地域福祉全体のニーズも拡大しており、社会福祉法人が果たす役割はますます重要性を増していると言えます。

このような全国的な動向に加え、静岡県西部地域においては介護福祉士養成施設が相次いで閉校したこともあり、介護・福祉に携わる若年層の人材供給が急激に減少しています。外国人の受入れによって一定の人材確保を図っているものの、将来の介護・福祉業界を担う若く優秀な人材が他業種へ流出している現状には危機感を抱かざるを得ません。学卒の採用環境も大きく変化し、特に高卒採用は、近年、製造業や物流業、サービス業など他業種の積極的な参入により、採用競争は一層激化しています。特に大企業による初任給引き上げの動きは、若年層の就職先選択に大きな影響を与えており、介護業界は我が国の産業として健全な発展が危ぶまれるほどの厳しい環境ではないかと危惧しています。

このような厳しい状況の中、当法人では、週休3日制の導入やICT機器・介護ロボットの積極的な活用など、職員の身体的・心理的負担の軽減と働きやすい職場環境の整備を進めてきました。その結果、求職者から一定の評価を得ることができ、少ないながら毎年若干名の新卒職員や一般採用の介護職員を確保することができています。これは、これまでの取り組みが採用力の向上につながっているものと考えられ、我々の強みでもあると認識していますが、職員の定着・成長に向けては、若手・中堅・外国人材など多様な職員が安心して働き続けられるよう、心理的安全性の高い職場づくりと、個々の強みを伸ばす育成支援を一層充実させることが重要であり、今後も継続的に取り組んでいく考えです。

職員の処遇改善については、安定的な人材確保と定着を図るため、一般職給料表の見直しを行い、特に若年層に該当する1等級・2等級の基本給を中心に平均2.9%の引き上げを実施しました。看護職員については、新たに資格手当を新設し、看護師8,000円、准看護師5,000円を支給することとしました。これらの取り組みにより、専門職を含めた職員の処遇改善と職場定着の促進を図っています。

外国人介護職員の受け入れについては、フィリピン人技能実習生4名のうち西貝の郷に配属した2名が6カ月で帰国するという思わぬ事態となり、受け入れ体制や支援のあり方について検討を要する結果となりました。一方で、日本に在住するブラジル人等の定住者・永住者5名を新たに採用することができ、多様な人材の確保という点では一定の成果を上げることができました。

今後は、多文化共生の視点を踏まえた人材確保と定着支援の強化が重要になると考えています。

経営成績の面においては、施設設備の老朽化等に伴う空調用吸収式冷温水発生機やボイラーの更新、ナースコール・電話設備更新など、大規模かつ高額な修繕が重なり、当初は大幅な収支悪化を見込んでいました。しかしながら、各事業の稼働率が年間を通じて堅調に推移したことや、高額の設備整備を抑えるなど経費の適正管理に努めたことにより、最終的には黒字を確保することができました。引き続き、計画的な設備更新と財務の健全性確保が課題となります。

本年度は、理事及び監事の任期満了に伴う改選の年にあたり、関係法令及び定款の規定に基づき、適正な手続きのもと役員の選任を行いました。選任にあたっては、地域における新型コロナウイルス感染症の状況等を踏まえ、感染拡大防止を最優先とする観点から、理事会における理事・監事候補者の選任及び理事長の選定、並びに定時評議員会による役員の選任について、いずれもみなし決議の方法により実施致しました。その結果、理事および監事全員が再選されております。これにより、法人運営の継続性と安定性が確保されるとともに、これまでの方針を踏まえた一貫した事業運営が可能となる体制が整いました。

5 重点施策

1 経営基盤の強化とサービス向上の取り組み

(1) 財政状態の確認と予算進捗の管理

定期的に財務状況を確認し、事業別の収支や予算の進捗を管理しました。高額修繕の発生により厳しい財務状況ではありましたが、稼働率の確保と加算取得により収入を維持し、想定よりも赤字幅を縮小することができました。

(2) 稼働率の向上・加算取得に向けた拠点間連携の強化

各事業所間で利用調整や加算要件の確認を行い、情報共有を強化しました。その結果、特養・短期入所・通所介護いずれも安定した稼働率を確保し、収入確保に寄与しました。

(3) 業務の効率化・合理化の推進

ICT 機器や介護ロボット（移乗支援機器、入浴支援機器等）を活用し、記録業務の効率化や職員の身体的負担軽減を図りました。これにより、サービスの質の維持と職員の定着に一定の効果が見られました。

2 外国人介護職員を活用したサービス提供体制の構築

(1) 外国人介護職員が活躍できる職場環境の整備

フィリピン人技能実習生 4 名のうち 2 名が半年で帰国し実習打ち切りとなりました。海外の人材活用の難しさ、特に日本語能力や意欲が低い外国人の適応が課題として明らかになりました。

(2) 生活面の支援

生活相談、日本文化への適応支援、日常生活のトラブル対応などを行いましたが、帰国した 2 名については生活面の不安というよりも個人の資質の問題が背景にあったと考えられます。

(3) 研修体系の構築

動画研修にポルトガル語対応がないことが課題となりました。今後は法人独自の補助教材の整備や、職員による個別支援の強化が必要です。

(4) 交流・親睦の場の提供

日本人職員との交流機会を設け、多文化共生の促進に努めました。また、日本に在住するブラジル人定住者・永住者 5 名を新たに採用し、人材確保に一定の成果がありました。

3 継続的な職員処遇の向上による人材確保

(1) 給与表改定・年次有給休暇の改善

一般職給料表を改定し、平均 2.9%の基本給引上げを実施しました。特に若年層の確保を目的に、高卒初任給を 165,100 円から 170,100 円へ引き上げました。

また、採用後 3 か月で付与していた年次有給休暇 3 日を「採用から 2 週間で付与」へと改善し、働きやすい職場づくりを推進しました。

(2) 看護職員の資格手当の新設

看護師 8,000 円、准看護師 5,000 円の資格手当を新設し、専門職の確保と定着を図りました。

(3) 採用活動の強化

就職イベントへの参加、研究発表大会での発表、地域イベントへの参加、高齢者サロンへの職員派遣など、地域に根ざした情報発信を継続しました。高卒採用では職場見学内容を見直し、一般採用ではスカウト型求人を活用しました。

(4) 介護ロボット・ICT 機器の活用

移乗支援機器、入浴支援機器、眠り SCAN 等を活用し、夜間の見守り負担軽減や移乗介助の安全性向上を実現しました。

(5) 介護人材確保・職場環境改善等事業による一時金支給

国・県の補助事業を活用し、職員への一時金支給を行いました。

6 運営実績

1 会議関係

(1) 評議員会

日 時	審議事項等
令和 6 年 6 月 17 日 (火) (決議省略)	(1) 審議事項 ・ 令和 6 年度収支決算書（計算書類・財産目録の承認）について ・ 任期満了に伴う理事・監事専任（案）について (2) 報告事項 ・ 令和 6 年度事業報告書について

(2) 理事会

開催日	主な審議事項
第 1 回（決議省略） 令和 7 年 5 月 30 日（金）	(1) 審議事項 ・ 令和 6 年度 事業報告(案)及び収支決算(案)について ・ 評議員会への提案について ・ 任期満了に伴う理事・監事専任(案)について ・ 任期満了に伴う評議員選任・解任委員会委員の選任(案)について ・ 給与規程の一部改正(案)について ・ 西貝の郷空調設備更新工事(案)について ・ 令和 7 年度 嘱託医契約の承認について (2) 報告事項 ・ 監事監査の結果について

第2回（決議省略） 令和7年6月17日（火）	審議事項 理事長選定(案)について
第3回 令和7年10月14日（火） 15:00 開会	(1) 審議事項 ・ 令和7年度第一次収支補正予算(案)について ・ 西之島の郷空調設備更新工事(案)について ・ 就業規則の一部改正(案)について ・ 西貝の郷ナースコール・電話設備更新工事の入札結果について (2) 報告事項 ・ 理事長の職務執行状況報告について
第4回 令和8年3月24日（火） 15:00 開会	(1) 審議事項 ・ 令和7年度 第二次補正予算(案)について ・ 令和8年度 事業計画(案)について ・ 令和8年度 当初予算(案)について ・ 令和7年度介護保険事業費補助金による賃上げ(案)について ・ 給与規程の一部改正(案)等について ・ 給食業務委託費の変更契約について (2) 報告事項 ・ 理事長職務執行状況報告について ・ 指導監査の結果について

2 監事監査

開催日	監事名	記 事
令和7年 5月23日（金）	名波監事 鈴木監事	決算監査（会計監査、「監事のための監査チェックマニュアル」 社会福祉法人社会福祉協議会発行（改訂第8版）による）
令和7年 9月29日（月）	名波監事	西貝の郷期中監査（預金通帳残高照合、月次試算表、現金出納 帳、小口現金出納帳、各種伺い書等確認、他）
令和7年 10月14日（火）	山本監事	令和7年度第3回理事会出席
令和7年 12月17日（水）	名波監事	西之島の郷期中監査（預金通帳残高照合、月次試算表、 現金出納帳、小口現金出納帳、各種伺い書等確認、他）
令和8年 3月24日（火）	山本監事	令和7年度第4回理事会出席

3 情報公表

公表事項	公表方法
事業報告書	事務所備え置き、ホームページ
決算関係書類	事務所備え置き、ホームページ、財務諸表電子開示システム
現況報告書	事務所備え置き、ホームページ、財務諸表電子開示システム
定款	事務所備え置き、ホームページ
役員報酬基準	事務所備え置き、ホームページ
事業計画書	事務所備え置き、ホームページ

4 その他

年月日	項目	記 事
令和 7 年 4 月 1 日（火）	新任職員入職式	新規学卒 2 名・中途採用 4 名・契約職員 3 名・技能実習生 4 名
令和 7 年 4 月 1 日（火） 令和 7 年 4 月 2 日（水）	新任職員合同研修	

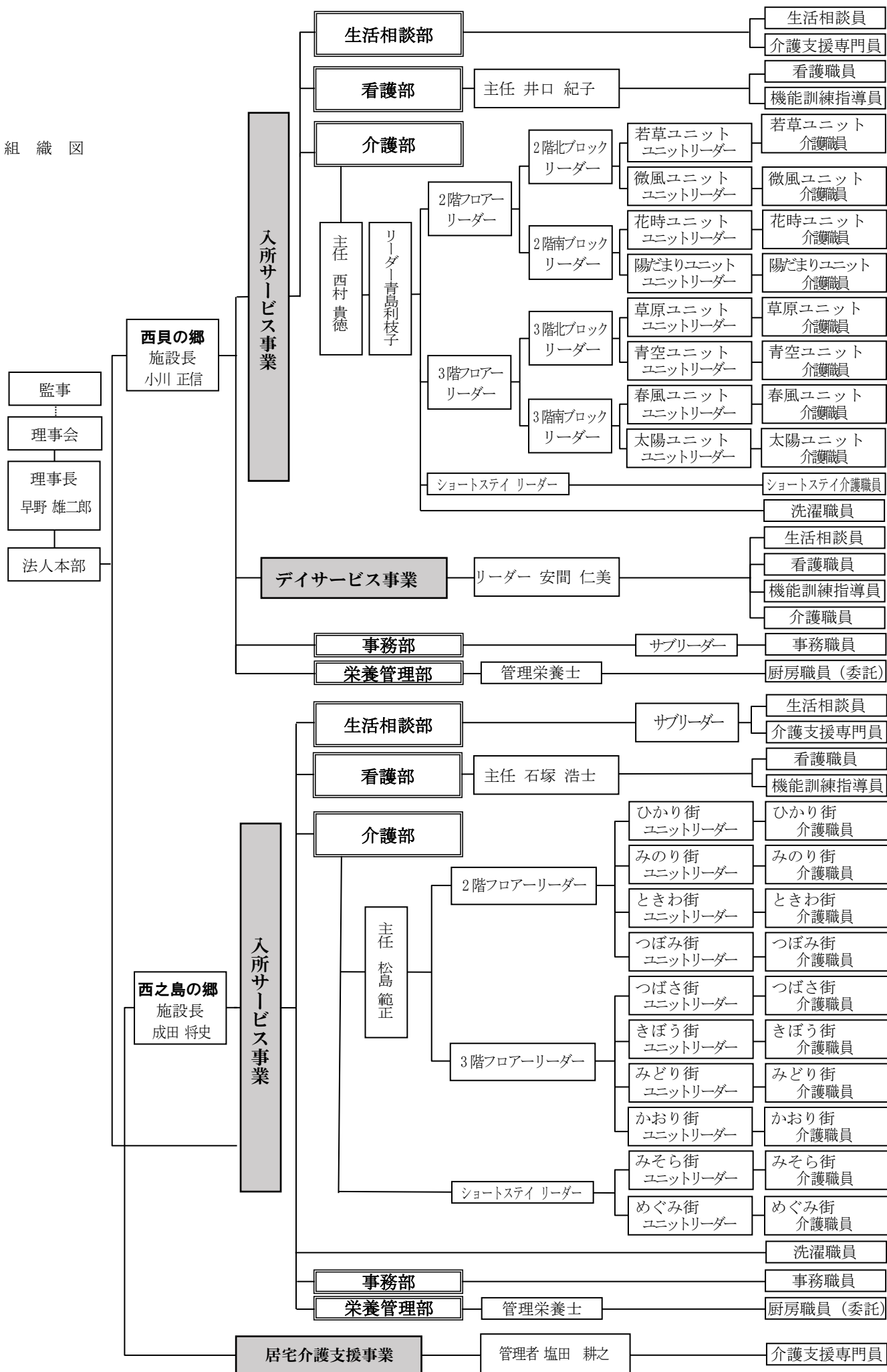
7 借入金償還

令和 7 年度の機首借入金残高は、西之島の郷拠点区分の 6 千 720 万円です。今期の返済額は元金 3 千 360 万円、利息 134 万 4 千円、財源の内訳は償還補助金が元金助成 57 万 3,150 円、利息助成 9 万 7,958 円、残金は介護報酬をもって充当しました。

（単位：円）

拠 点 区 分		西之島の郷
借 入 先		福祉医療機構
期 首 残 高		67,200,000
当 期 償 還 額	元 金	33,600,000
	利 息	1,344,000
	計	34,944,000
当 期 償 還 補 助 金 額	元 金	573,150
	利 息	97,958
	計	671,108
期 末 残 高 （うち 1 年以内返済予定額）		33,600,000 (33,600,000)
返 済 期 限		2027 年 2 月 10 日
備 考		利率 2.0%

組 織 図



令和7年度 西貝の郷 事業報告書

特別養護老人ホーム西貝の郷
短期入所施設西貝の郷
デイサービスセンター西貝の郷

1 施設概要

施設 の 名 称 特別養護老人ホーム西貝の郷

所 在 地 〒438-0026 静岡県磐田市西貝塚 2111 番地 1

設 置 認 可 日 平成 14 年 12 月 20 日

事 業 の 種 類

1	事 業 所 名	特別養護老人ホーム 西貝の郷
	介護保険事業種別	指定介護老人福祉施設
	事 業 所 番 号	2276700181
	定 員	80 名
2	事 業 所 名	短期入所施設 西貝の郷
	介護保険事業種別	指定（介護予防）短期入所生活介護
	事 業 所 番 号	2276700181
	定 員	10 名
3	事 業 所 名	デイサービスセンター 西貝の郷
	介護保険事業種別	指定通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業第 1 号事業
	事 業 所 番 号	2276700181
	定 員	40 名（土曜日は 15 名）

2 施設の運営状況

令和 7 年度、西貝の郷では、特別養護老人ホームを取り巻く環境が変化する中においても、安定した施設運営とサービスの質の向上を両立することを基本方針として、各事業を推進して参りました。

特養は、平成 27 年度の制度改正において原則として要介護 3 以上の中・重度者を対象とする施設に位置付けられ、それからちょうど 10 年が経過しました。かつて、特養は長期間の入所待機が一般的でしたが、近年は待機者数が減少し、入所を取り巻く環境は大きく変化しています。このような状況の中、施設経営においては、利用率の確保とサービスの質の維持・向上の両立が重要となっています。こうした中で、令和 6 年度は、退居率が 5 割を超えるという過去に例のない入退居対応の多い一年でしたが、令和 7 年度は例年並みの水準に落ち着きました。入居率については、年間を通じて概ね 98%前後を維持し、引き続き安定した運営を継続することができました。入居者の平均要介護度は約 3.8 となっています。特養においては、施設が入居希望者を心身の状態や介護度で選別することはできないため、平均介護度はその時々地域のニーズを反映した結果となりますが、本年度は中重度者への対応を基本としながらも、施設内の活動性を維持できるバランスの取れた入居構成であったと考えています。

介護テクノロジーの活用については、スマートフォン連動型ナースコールシステムと見守り支援機器「眠り SCAN」を組み合わせることで、利用者の睡眠状態や体動を把握し、状態変化への早期対応を可能としました。また、移乗用リフト、移乗支援ロボット「Hug」、入浴支援機器等の導入により、職員の身体的負担軽減と安全な介助の両立を図りました。これらの取り組みにより、

令和6年度に12件発生した介護事故は、令和7年度は5件に減少し、事故防止体制の強化に繋がりました。

ショートステイおよびデイサービスについては、在宅生活を支える重要な事業として、ご利用者およびご家族の満足度向上に努めました。ショートステイの稼働率は年間平均約74.6%、デイサービスは約67.0%で推移し、いずれも前年度と同程度の水準となりました。レクリエーション、外出支援、創作活動などを積極的に取り入れ、心身機能の維持・向上に繋がるサービス提供を行うとともに、ケアマネジャーやご家族との連携を強化し、在宅から入所まで切れ目のない支援体制の構築に努めました。

西貝の郷は、開設から23年が経過し施設設備の老朽化が進んでいることから、計画的な更新・修繕を進めています。令和7年度は、温水ボイラー2台の更新工事およびナースコール・電話設備更新工事を実施し、安全で安心な生活環境の維持に努めました。

財務面では、これらの設備投資を実施しながらも、一定の資金収支差額および活動増減差額を確保し、安定した経営を維持することができました。今後は空調設備の更新も見据え、施設の長寿命化に向けた計画的な投資を進めて参ります。

施設の安定的な経営とサービスの質の向上に向けて人材育成に取り組み、事故防止、認知症ケア、看取りケア、感染症対策、倫理・コンプライアンス等に関する研修を計画的に実施し、職員の専門性向上を図りました。職員定着率についても一定の水準を維持しており、安定した人員体制のもとで継続的なサービス提供を行うことが出来ました。今後も、働きやすい職場環境づくりと人材育成の充実に取り組んで参ります。

地域との関わりでは、ボランティアの受入れや高校生・小中学校生等の実習や体験学習の受入れを行い、福祉人材の育成にも貢献しました。また、季節行事や地域交流の機会を大切にし、地域に開かれた施設運営を継続しています。

特別養護老人ホームは、地域における「介護の最後の砦」としての役割を担っています。当施設では、認知症による行動・心理症状がある方についても可能な限り受入れを行い、一人ひとりの個性と尊厳を尊重しながら、その人らしい生活を最期まで支援して参りました。今後も、利用者・ご家族に選ばれる施設であり続けるため、サービスの質向上、人材育成、働きやすい職場環境の整備を進めるとともに、持続可能な経営基盤の確立に努めて参ります。

3 重点施策

1 介護事故防止に向けた取り組みの推進

(1) 動画研修を活用して、全職員に正しい介護技術の理解やご利用者の権利擁護、虐待等に関する意識の啓発を行い、無理な介護、乱暴な介護等の不適切な介護の撲滅を目指しました。同時に、移乗用リフトや移乗支援ロボット、見守り支援システムなど最新の介護機器を活用することによって、安全な介護に努めました。介護機器の活用はご利用者の安心にもつながるため、サービスの向上にも役立っています。

(2) 事故発生時の原因究明や再発防止策の立案・評価等の事故の再発防止のための取り組みや事故防止委員会の活動等により、事故発生の未然防止・再発防止の強化に努めました。

(3) ヒヤリハット活動を強化し、内出血や原因不明の傷などについても原因究明と対策を実施することで、事故につながるリスクの排除や損害の軽減を目的とした対応を心掛けました。また、チーム内でのミーティングにおいて職員に注意喚起するなどして職員の意識の向上を図りました。

(4) 事故のリスクや状態の変化などについてご家族等への報告を徹底することでご家族の理解を

得られるよう心掛けました。

(5) 休日・夜間など、生活相談員や看護職員、上長などが不在の時間帯に発生した問題への対応について標準化を進めました。

2 医療（看護）及び管理栄養士と介護の連携強化・機能訓練の充実

多職種が連携して、重度化している入居者への対応や看取り介護の充実に取り組みました。常勤の看護職員 5 名のうち 2 名が退職し体制に不安があったが、残った看護職員を中心に介護・相談・栄養の各職種が連携し、また協力病院が診療日以外でも往診や相談に応じてくれたことで、急な体調変化にもスムーズに対応ができました。協力医療機関との連携の強化が成果として挙げられます。看取り介護においては、PDCA の中で今後は評価（C）を強化し、更なる質向上につなげていきたいと思っています。

(2) 機能訓練については、看護職員が機能訓練指導員を兼務してより質の高い訓練に取り組む計画でしたが、新たな職員の確保ができず、思うような形での実施はできませんでした。一方で、介護職員が日常生活の中で個々の状態を見ながら生活リハビリを働きかけ、個別のケースでは動作の安定や身体機能の改善などの効果が見られました。

(3) 個々の状態に応じた食事の提供を目指していますが、食材費が高騰する中、管理栄養士が安価な食材選定・仕入れ先の見直し・献立の工夫を行い、質を保ちながら提供を継続しました。嚥下・栄養状態の変化には看護・介護と連携し、食形態調整や栄養補助食品の提供など個別対応を実施しました。

3 認知症の方に対するケアの質の向上

(1) 認知症理解を深める研修として、特養、ショートステイ、デイサービスの常勤非常勤を問わず全職員を対象に動画研修を実施しました。ユマニチュードの動画研修では、「見る・触れる・話す」の 3 つの柱を意識した関わり方を学び、職員からは「日々のケアに直結する内容で受講して良かった」との声がありました。認知症ケアの基本姿勢を全職員で共有できたことが成果と言えます。

(2) ケアプランやユニット会議を通じて、認知症の方への関わり方や対応方針を共有し、職員間で統一したケアを進めました。行動・心理症状（BPSD）がある方への対応についても、情報共有と話し合いを重ね、個別性に応じた支援を検討しました。

(3) ユマニチュードの 4 つの柱として日々のケア場面で「見る・話す・触れる・立つ」を意識し、安心感を与える関わりを心がけました。大きな声かけは高齢者を驚かせてしまうこと、言動は忘れても感情は残ることなど、職員が学んだ気づきが実践に活かされていると思います。不安や不信感を与えない関わりを継続することで、ケアへの抵抗が軽減した場面も見られています。

4 建物・設備の適切な維持管理

(1) 各種設備について、定期的な点検と動作確認を実施し、安全に使用できる状態を維持するよう心掛けました。日常的な確認を継続することで、故障や不具合の早期発見につながっています。

(2) 建物内部だけでなく、外構や屋上も含めた巡回を定期的に行い、劣化や異常の早期発見に努めました。小さな不具合を見逃さず対応することで、事故防止と建物の長寿命化に寄与しました。

(3) 老朽化した設備や必要な修繕について、計画に基づき順次更新を進めました。突発的な故障を防ぎ、安定した施設運営につながっていると思います。

4 各サービス及び部署等実績報告

1 特別養護老人ホーム・ショートステイ

一 介護部

介護部では、認知症の進行や全身状態の変化により体調把握が難しいご利用者が増加する中、安全で安定した生活を提供することを最優先に取り組みました。

(1) 生活動作・生活リスクの分析による安全な介護の提供

ご利用者の重度化が進む状況に対し、正確なアセスメントと介護技術の向上、眠り SCAN や介護リフト等の介護機器の積極的活用を進めました。昨年と比較して事故件数は約三分の一になり、安全性向上に明確な成果が確認されました。また、生活データの収集と分析を通じ、リスクマネジメントに活かす取り組みも進展しました。

(2) ユマニチュードの実践と個別ケアの質向上

認知症ケアの質向上を目的に、「見る・話す・触れる・立つ」のユマニチュードの考え方を内部研修に取り入れ、職員全体で実践に取り組みました。職員の経験や性格によってもまだ対応に差があるのが現状で、対応のばらつきが課題として残りました。また、認知症の方のニーズ把握が難しいケースも多く、より丁寧な関わりと情報収集の強化が必要であることが明らかになりました。また、ケアプランへの個別ケアの反映についても、引き続き改善の余地があります。

(3) 研修動画配信サービスを活用した内部研修体制の整備

研修動画配信サービスを導入し、効率的に研修を受講できる体制を整えました。動画研修になることで効率的に研修を受けられる体制が確立した一方で、効率化により介護の質を意識した研修意欲は薄くなったように感じるとの見方もあり、研修の質と職員の学習意欲を両立させる仕組みづくりが今後の課題となりました。

(4) 外国人技能実習生の受け入れと環境整備

フィリピンからの技能実習生の受け入れを開始し、介護技術だけでなく言葉や日本での生活面のサポートも含め、施設全体で教育に取り組みました。しかし、10月の半ばに技能実習生が突如帰国を申し出、そのまま実習終了という予期せぬ結果となりました。人材不足対策の切り札と考え多額の先行投資をしましたが、非常に残念な結果となりました。

二 看護部

看護部では、看護ケアの統一と部署間連携の強化を重点課題として取り組みました。前年度に「統一したケアの提供が難しく、看護ケアの提供や各部署との連携がとりにくいことがあった」という課題があったことから、看護職員のフロアー担当制を導入し、情報共有の円滑化とケアの標準化を進めました。

(1) 看護職員のフロアー担当制による連携強化と統一ケアの推進

フロアー担当制の導入により、介護職員や相談員との情報共有が行いやすくなり、日々の細かな変化を把握しやすい体制が整いました。担当制は看護業務の偏りを緩和しつつ、ご利用者一人ひとりに対する統一したケアの継続に寄与しました。

(2) ご利用者・ご家族の意向を踏まえた看護ケアと急変の早期発見

ご利用者の入れ替わりが多い状況の中、看護職員間でのミニカンファレンスを積極的に実施し、体調変化に応じた情報共有と対応を行いました。担当看護職員をメインにご利用者の体調変化に合わせた情報発信や対応が行えるようになり、看護部内の連携強化が進みました。

また、積極的な医療を希望されるご家族が増える中、ご本人・ご家族の意向を踏まえ、必要に応じて療養型病院への受診・入院を検討するなど、適切な医療判断と連絡体制の強化に努めまし

た。

(3) 生活の場でのリハビリ（機能訓練）の実施に向けた課題

生活リハビリの開始を目標としていましたが、看護職員の退職に伴う人員不足により、日常生活のケアが中心となり、機能訓練の実施には至りませんでした。人員体制の早い整備が今後の重要な課題として残っています。なお、来年度は、人員配置や業務分担の見直しを含め、生活リハビリを実施できる体制づくりを検討していきます。

三 生活相談部・介護支援専門員

相談部では、稼働率の向上、適切なケアマネジメントの実施、ご家族との良好な関係づくりを重点目標として取り組みました。令和6年度は退所者数が例年以上に多く、入所待機者がゼロになり稼働率を維持することが難しいことがあったことから、営業活動の強化とスムーズな利用案内を課題としました。

(1) 各事業の稼働率向上に向けた取り組み

ショートステイのロング枠との連携を強化し、ケアマネジャーやご家族等から入所意向を確認することで、入所待機者を確保し、特養の稼働率維持につなげました。また、居宅介護支援事業所へ空き状況を適宜連絡し、特養への入所予定者を積極的に確保するなど、稼働率向上に向けた取り組みが一定の成果を上げました。一方で、外部への営業活動が十分に行えなかった点は課題として残りました。

(2) 適切なアセスメントとケアプラン作成の推進

職種間の情報共有を強化し、ご利用者の健康状態や生活動作、要望などの把握に努めました。職種間の共有により、ご利用者の健康状態や生活動作の変化などに関わることが出来ており、アセスメントの精度向上とケアプランへの反映も進んでいる状況です。引き続き、統一したサービス提供につながるケアマネジメントの質向上に取り組めます。

(3) ご家族への適切な情報連絡と関係構築

介護・看護・栄養士等の多職種で情報共有を密に行い、ご家族への丁寧な説明を心がけました。時間や場所を設け相談と記録を行う事で、その後の職種間の共有にも役立てる事が出来、良好な関係性に繋げる事が出来ました。相談対応の質が向上し、ご家族との信頼関係の構築に寄与していると思われま

四 事務部

事務部は、施設全体の効率化と採算性の向上、労働環境の整備、そして窓口としての接遇向上を重点目標として取り組みました。前年度には、防災倉庫の設置により備蓄品の整理整頓が進んだ一方、感染症発生時の消耗品出庫については、管理がしっかりできていないことがあるという課題があり、緊急時にも対応できる管理体制の強化が求められていました。

(1) 消耗品管理の適正化と経費削減への取り組み

定期的な在庫チェックを継続し、感染症や災害発生時に備えた管理体制の維持に努めました。一方で、消耗品の値上がりが多く、経費削減は容易ではありませんでしたが、仕入れ先の見直しを行い、可能な範囲でコスト抑制に取り組みました。

(2) 来客対応における接遇向上

施設の窓口として、笑顔と明るい声を意識した接客を継続しました。笑顔と明るい声で接客する事を目標に、面会者が増える中でも、明るく親切的な雰囲気づくりに努め、施設の印象向上に寄与することを心掛けました。

(3) 職員の残業管理と健康維持の推進

職員の残業時間や有休取得状況を適切に管理し、残業時間の削減に取り組みました。全体的に残業時間を削減する事ができ、働きやすい環境づくりに一定の成果が見られました。また、健康維持への呼びかけも行い、職員の健康意識向上に向けた取り組みを進めました。

(4)「ふじのくに健康づくり推進事業所」認定区分の向上に向けた取り組み

ブロンズからシルバーへの認定区分向上を目標としていましたが、今年度は達成には至りませんでした。ただし、健康宣言の見直しをする事はでき、次年度に向けた基盤づくりが進みました。

今後は、健康づくりの取り組みをより具体的に進め、認定区分の向上を目指します。

五 栄養管理部

栄養管理部では、食材価格の高騰や厨房職員の人員不足と高齢化という厳しい環境の中で、食事提供の質を維持しつつ業務改善を進めることを重点目標として取り組みました。前年度から食材費の高騰が大きな課題となる中で、厨房の人手不足により、管理業務が後回しになる状況も見られ、業務の見直しが求められていました。

(1)食材高騰への対応と新メニューの導入

食材価格の高騰が続く中、従来使用していなかった食材の活用やメニューの工夫に取り組みました。新しい食器を購入したことで献立内容や提供方法を変えることができ、レパートリーを増やしつつ、厨房の負担軽減にもつなげることができました。また、業者の見直しを行い、新たに2社との取引が可能となるなど、価格調整に向けた取り組みも進展しました。

(2)厨房業務の見直しと安心・安全な食事提供

厨房職員の高齢化に伴い、作業ミスの増加が課題となっていました。そのため、提供方法や衛生面の見直しを行い、厨房内で直接作業しながら指導を行うことで、安全な食事提供に努めました。一方で、作業工程の簡素化や新しい方法の導入についてはスタッフに受け入れられないこともあり、改善の難しさも明らかになりました。今後も継続的に改善提案を行い、業務効率化と安全性向上を目指していきます。

(3)他部署との連携による栄養ケアの推進

デイサービス、ショートステイ、特養といった多様なサービス形態に応じた食事提供を行うため、他部署との情報共有を強化しました。ご利用者本人や家族環境を踏まえた食事内容や提供方法を提案することができ、個別の対応が進みました。また、栄養ケア記録の充実にも取り組み、少しずつではあるが、栄養ケアを進めることができました。

2 デイサービス

デイサービスでは、利用率の安定化、新規利用者の獲得、職員間の連携強化、月行事の充実化を重点目標として取り組みました。前年度、職員の連携不足、人員不足の為、レクリエーションの内容など変更することが増えてきている、会議や研修等が行えないことがあったという課題に対して、体制や運営の見直しが求められていました。

(1)新規利用者獲得とレクリエーションの充実

新規利用者の紹介は多く得られましたが、入れ替わりが激しく、曜日によって利用人数に大きな差が生じる状況が続きました。長期ご利用されていた方々のサービス終了があり、利用率が減少することもあり、利用率の維持が課題となりました。一方で、ご利用者やご家族の要望に合わせたリハビリ体操の導入やレクリエーション内容の工夫に取り組み、個々の生活の充実に努めました。

(2)月行事の実施と内容の工夫

年間を通じて季節行事の実施に努め、感染対策を行いながら楽しめる内容づくりを進めました。

ただし、職員により、月行事に対しての考え方の温度差が激しく、統一感がなく終了してしまうこともあり、職員間の意識差が課題として残りました。今後は、利用者が楽しめる行事を安定して実施できるよう、職員同士の連携を強化していきます。

(3) デイ会議・内部研修の実施体制の整備

会議や内部研修については、実施が不十分な月があり、職員間で意見交換や技術向上の機会が不足することがありました。次年度に向けて定例化の必要性が明確になりました。

(4) ご家族対応・地域との連携

ご家族からの相談やケアマネジャーからの依頼には、必要に応じて適切に対応し、サービス提供に反映することができました。また、地域のサロンから依頼があった際は積極的に参加するなど、地域活動への参加意欲や地域とのつながりを強化する姿勢が見られました。

3 ショートステイ

ショートステイは、細やかなケア内容の実施、職員間の情報共有の強化、レクリエーションの充実、そして快適な環境づくりを重点目標として取り組みました。前年度から、レクリエーションや個別ケアの取り組みにより定期利用者が増加し、施設入所につながるケースも増えていましたが、職員の怪我や離職、感染症の影響、営業不足などにより稼働率が前年を下回る課題がありました。

(1) 生活動作・生活リスクの把握と細やかなケアの実施

ご利用者の生活動作や生活リスク、認知症状の把握を徹底し、細部まで踏み込んだケアの実施と見直しを継続しました。変化の早期発見とケア内容の修正により、生活課題の緩和や解決、ADLの維持向上や食事摂取量の改善など、具体的な成果が見られました。また、施設入所につながるケースも増加傾向となり、ショートステイとしての役割を果たすことができました。

(2) 介護記録の充実と職員間の情報共有の強化

記録入力や掲示板の活用を進め、経過状況やケア内容の変化を共有する体制を整えました。自立動作と介助内容、発言内容等の記入が増え、記録の質と量が向上し、職員間のケア統一に寄与しました。一方で、情報共有の不足が残る場面もあり、引き続き改善が必要です。

(3) レクリエーションの充実と心身状態の維持向上

毎日の体操や塗り絵、脳トレなどの提供量を増やし、ご利用者の参加意欲向上につながりました。日中傾眠時間減少や参加意識が向上し、活動量の増加が心身状態の維持に良い影響を与えているように見受けられます。ただし、新しい活動の導入は一部に留まり、今後の課題として残りました。

(4) 清掃・整理整頓による環境整備

備品配置の見直しや整理整頓を進め、安全性と使用効率の向上に努めました。一方で、職員減少の影響により、毎日のルーティン清掃や軽微な整理整頓の維持にとどまり、細部の改善には至らない部分もありました。蛍光灯の点検・交換など、基本的な環境整備は確実に行われています。

1 職員数

令和8年3月31日現在

単位(人)

			施設 長	医 師	生 活 相 談 員	介 護 支 援 専 門 員	介護職員					看護職員			機 能 訓 練 指 導 員	管 理 栄 養 士	事 務 員	音 楽 療 法 士	洗 濯 職 員	運 転 手	合 計
							介 護 福 祉 士	実 務 者 研 修	初 任 者 研 修	ヘルパー 二級	その他・無 資格	計	看 護 師	准 看 護 師	計						
特別養護老人ホーム	常勤	男	1				10			2	12	1		1							14
		女			1		8			4	12	2		2		1	2				18
		計	1		1		18			6	24	3		3		1	2				32
	非常勤	男	実人数	1			1										1				2
			常勤換算	0.1			1.0										0.3				0.4
		女	実人数				2	3	2	8	15	2		2				1	3		21
			常勤換算				1.1	2.4	0.8	6.4	10.7	1.1		1.1				0.6	1.6		14.0
		計	実人数	1			3	3	2	8	16	2		2			1	1	3		24
			常勤換算	0.1			2.1	2.4	0.8	6.4	11.7	1.1		1.1			0.3	0.6	1.6		15.4
デイサービス	常勤	男																			
		女			1		3				3										4
		計			1		3				3										4
	非常勤	男	実人数																	3	3
			常勤換算																	1.5	1.5
		女	実人数				3		1	2	6	3		3	1						9
			常勤換算				2.1		0.6	1.5	4.2	2.5		2.5	0.6						6.7
		計	実人数				3		1	2	6	3		3	1					3	12
			常勤換算				2.1		0.6	1.5	4.2	2.5		2.5	0.6					1.5	8.2
全体	実人数		1	1	2	0	27	3	3	16	49	8	0	8	1	1	3	1	3	3	72
	常勤換算		1	0.1	2	0	25.2	2	1.4	13.9	42.9	6.6	0	6.6	0.6	1	2.3	0.6	1.6	1.5	59.6

※兼務の職員は主たる職種に記載、休暇・休業中の職員及び派遣職員を除く。

2 職員の平均年齢・勤続年数・入退職の状況

令和8年3月31日現在

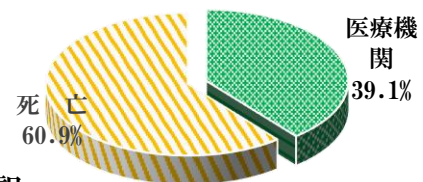
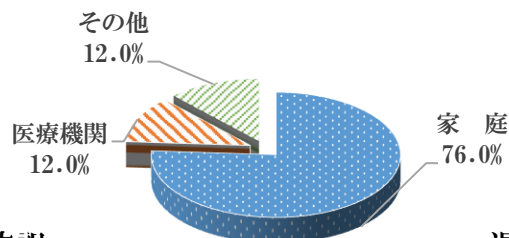
			平均年齢(歳)			平均勤続年数(年)			入職者(人)				入 職 率	退職者(人)				退 職 率
			介 護 職 員	看 護 職 員	職 種 其 他	介 護 職 員	看 護 職 員	其 他	介 護 職 員	看 護 職 員	其 他	計		介 護 職 員	看 護 職 員	其 他	計	
特養ホーム	常勤	男	39.3	58.0	51.0	10.7	1.5	22.3	1			1	7.7%	1				7.7%
		女	29.7	49.5	44.5	6.2	17.4	14.9	1			1	9.1%	2	2			30.8%
		計	34.5	52.3	46.7	8.5	12.1	17.4	2			2	8.3%	3	2			18.5%
	非常勤	男	29.0		46.0	5.0		3.5			1	1	50.0%					
		女	50.1	60.5	73.0	4.9	9.7	12.3	5			5	27.8%	6		1		35.0%
		計	48.9	60.5	64.0	5.0	9.7	11.0	5		1	6	22.7%	6		1		31.8%
デイサービス	常勤	男																
		女	44.3			7.0								1				20.0%
		計	44.3			7.0												
	非常勤	男			70.5			7.3			1	1	50.0%			1		33.3%
		女	53.7	53.7	55.0	6.0	10.3	2.1	1	1		2	11.1%	1				16.7%
		計	53.7	53.7	65.3	6	10.3	3.3	1	1	1	3	8.3%	1		1		22.2%

※入退職者数は令和7年4月1日～令和8年3月31日までの実績。その他の職種に医師は含まない。

1 特別養護老人ホーム入退居の状況

単位（人）

区分		新規入居者数						退居者数						月末 在籍者 数	
		医療 機関	社会 福祉 施設	家 庭	老人 保健 施設	その他	計	医療 機関	社会 福祉 施設	家 庭	老人 保健 施設	死 亡	その他		計
令和7年 4月	男							1						1	16
	女			3		1	4	1				2		3	62
	計			3		1	4	2				2		4	78
5月	男			2			2	1						1	17
	女	1		1			2	1						1	63
	計	1		3			4	2						2	80
6月	男											1		1	16
	女														63
	計											1		1	79
7月	男			1			1								17
	女			1			1	1						1	63
	計			2			2	1						1	80
8月	男														17
	女			2			2	2				1		3	62
	計			2			2	2				1		3	79
9月	男														17
	女			1			1								63
	計			1			1								80
10月	男					1	1								18
	女			2			2					3		3	62
	計			2		1	3					3		3	80
11月	男			1			1	1				4		5	14
	女			2		1	3								65
	計			3		1	4	1				4		5	79
12月	男														14
	女	2					2					1		1	66
	計	2					2					1		1	80
令和8年 1月	男														14
	女														66
	計														80
2月	男											1		1	13
	女			1			1	1						1	66
	計			1			1	1				1		2	79
3月	男			1			1								14
	女			1			1					1		1	66
	計			2			2					1		1	80
合計	男			5		1	6	3				6		9	
	女	3		14		2	19	6				8		14	
	計	3		19		3	25	9				14		23	

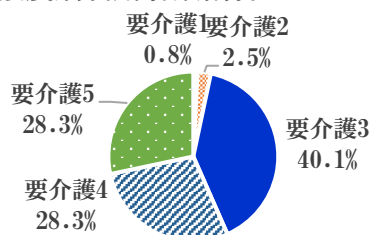


2 特別養護老人ホーム要介護度別サービス提供日数

単位 (人)

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均 介護度	入居率
令和7年 4月	男	0	30	180	188	108	506	3.86	96.2%
	女	0	0	720	563	520	1,803		
	計	0	30	900	751	628	2,309		
5月	男	0	31	199	196	93	519	3.83	98.0%
	女	0	0	804	556	552	1,912		
	計	0	31	1,003	752	645	2,431		
6月	男	0	30	210	180	90	510	3.82	98.5%
	女	0	30	750	510	565	1,855		
	計	0	60	960	690	655	2,365		
7月	男	0	56	234	155	93	538	3.80	97.1%
	女	0	31	753	496	589	1,869		
	計	0	87	987	651	682	2,407		
8月	男	0	62	248	147	93	550	3.77	98.1%
	女	19	31	750	495	589	1,884		
	計	19	93	998	642	682	2,434		
9月	男	0	43	239	120	120	522	3.79	99.1%
	女	30	30	720	506	570	1,856		
	計	30	73	959	626	690	2,378		
10月	男	0	31	223	124	124	502	3.82	97.0%
	女	31	31	713	539	589	1,903		
	計	31	62	936	663	713	2,405		
11月	男	0	30	252	106	106	494	3.82	97.8%
	女	30	30	641	582	570	1,853		
	計	30	60	893	688	676	2,347		
12月	男	0	31	248	93	93	465	3.76	99.4%
	女	31	31	772	603	564	2,001		
	計	31	62	1,020	696	657	2,466		
令和8年 1月	男	0	31	248	93	93	465	3.80	98.7%
	女	31	31	743	558	620	1,983		
	計	31	62	991	651	713	2,448		
2月	男	0	28	222	84	84	418	3.80	99.5%
	女	28	28	663	532	560	1,811		
	計	28	56	885	616	644	2,229		
3月	男	0	31	230	93	93	447	3.83	99.8%
	女	31	18	740	589	651	2,029		
	計	31	49	970	682	744	2,476		
合計	男	0	434	2,733	1,579	1,190	5,936	3.81	98.3%
	女	231	291	8,769	6,529	6,939	22,759		
	計	231	725	11,502	8,108	8,129	28,695		

要介護度別利用者数割合



特養入居者の入院者数 (延人数)



3 特別養護老人ホーム入居者の入院者数

単位 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	4	2	1	5	3	2	3	4	2	1	1	0	28
延人数	37	37	30	68	42	1	0	37	9	31	9	0	301

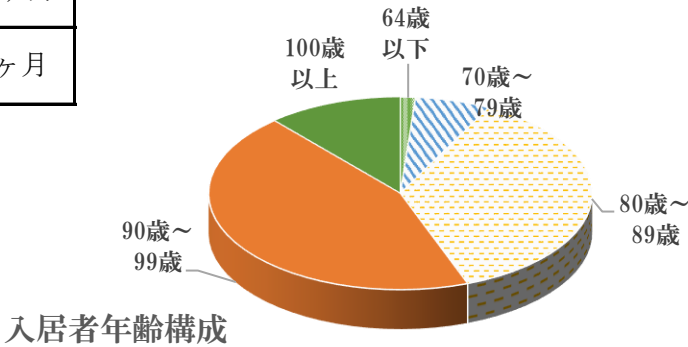
※入・退院日を除く

4 特別養護老人ホーム 年齢、性及び入所期間別入居者数

令和8年3月31日現在
単位（人）

区分		入居期間								合計
		6ヶ月未満	6月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上7年未満	7年以上9年未満	9年以上11年未満	11年以上	
64歳以下	男			1						1
	女									
	計			1						1
65歳～69歳	男	1								1
	女									
	計	1								
70歳～79歳	男									
	女	1		1	1		1		1	5
	計	1		1	1		1		1	5
80歳～89歳	男	1		5					2	8
	女	6	3	9	3					21
	計	7	3	14	3				2	29
90歳～99歳	男	1	2			1			1	5
	女	3	3	9	6	1	4	1	3	30
	計	4	5	9	6	2	4	1	4	35
100歳以上	男									
	女		2	3	3		1			9
	計		2	3	3		1			9
合計	男	3	2	6		1			3	15
	女	10	8	22	13	1	6	1	4	65
	計	13	10	28	13	2	6	1	7	80

平均年齢	男性	85歳8ヶ月	全体	89歳9ヶ月
	女性	90歳8ヶ月		
平均入所期間	男性	3年11ヶ月	全体	3年1ヶ月
	女性	2年11ヶ月		



5 特別養護老人ホーム入居者の介護保険利用者負担段階

令和8年3月31日現在
単位（人）

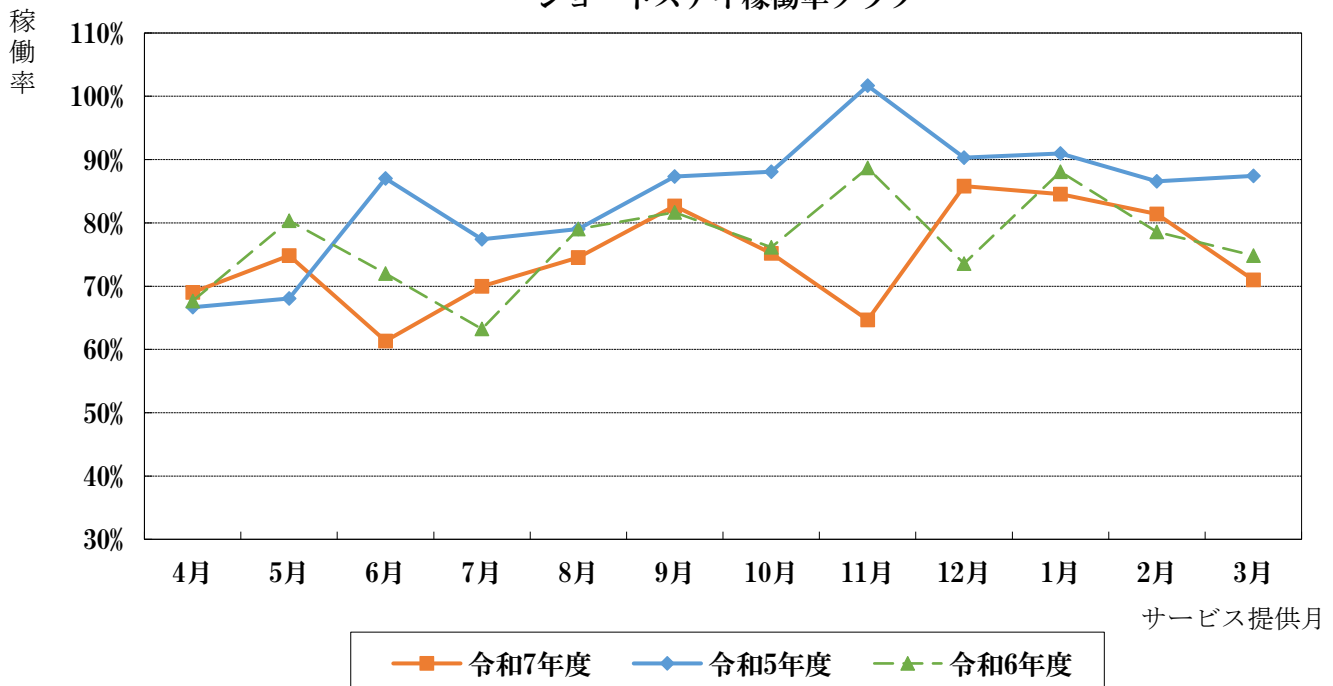
	第1段階	第2段階	第3段階①	第3段階②	第4段階	計
要介護1	0	0	1	0	0	1
要介護2	0	0	0	1	0	1
要介護3	0	6	3	7	16	32
要介護4	0	7	4	4	7	22
要介護5	0	6	3	4	10	23
計	0	19	11	16	33	79

ショートステイ 要介護度別延利用者数

単位（人）

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
稼働日数（日）			30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
定員数（人）			10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
利用者数	要支援1	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要支援2	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要介護1	男	7	1	3	3	0	3	4	20	10	9	0	0	60
		女	61	37	36	44	30	18	11	22	27	28	30	20	364
		計	68	38	39	47	30	21	15	42	37	37	30	20	424
	要介護2	男	0	0	0	0	6	5	5	2	30	31	28	31	138
		女	29	32	16	18	44	46	43	32	43	40	42	42	427
		計	29	32	16	18	50	51	48	34	73	71	70	73	565
	要介護3	男	10	21	0	0	0	0	2	0	3	11	0	3	50
		女	55	110	90	124	120	99	82	80	110	93	56	74	1,093
		計	65	131	90	124	120	99	84	80	113	104	56	77	1,143
	要介護4	男	17	20	14	14	18	43	62	19	0	0	0	0	207
		女	28	8	19	14	9	34	24	19	43	38	44	19	299
		計	45	28	33	28	27	77	86	38	43	38	44	19	506
	要介護5	男	0	0	0	0	4	0	0	0	0	12	28	31	75
		女	0	3	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
		計	0	3	6	0	4	0	0	0	0	12	28	31	84
	合計	男	34	42	17	17	28	51	73	41	43	63	56	65	530
		女	173	190	167	200	203	197	160	153	223	199	172	155	2,192
		計	207	232	184	217	231	248	233	194	266	262	228	220	2,722
平均利用者数（人）			6.9	7.5	6.1	7.0	7.5	8.3	7.5	6.5	8.6	8.5	8.1	7.1	7.5
稼働率（％）			69.0	74.8	61.3	70.0	74.5	82.7	75.2	64.7	85.8	84.5	81.4	71.0	74.6
前年比（％）			102.0	93.2	85.2	110.7	94.3	101.2	98.7	72.9	116.7	96.0	103.6	94.8	96.9

ショートステイ稼働率グラフ

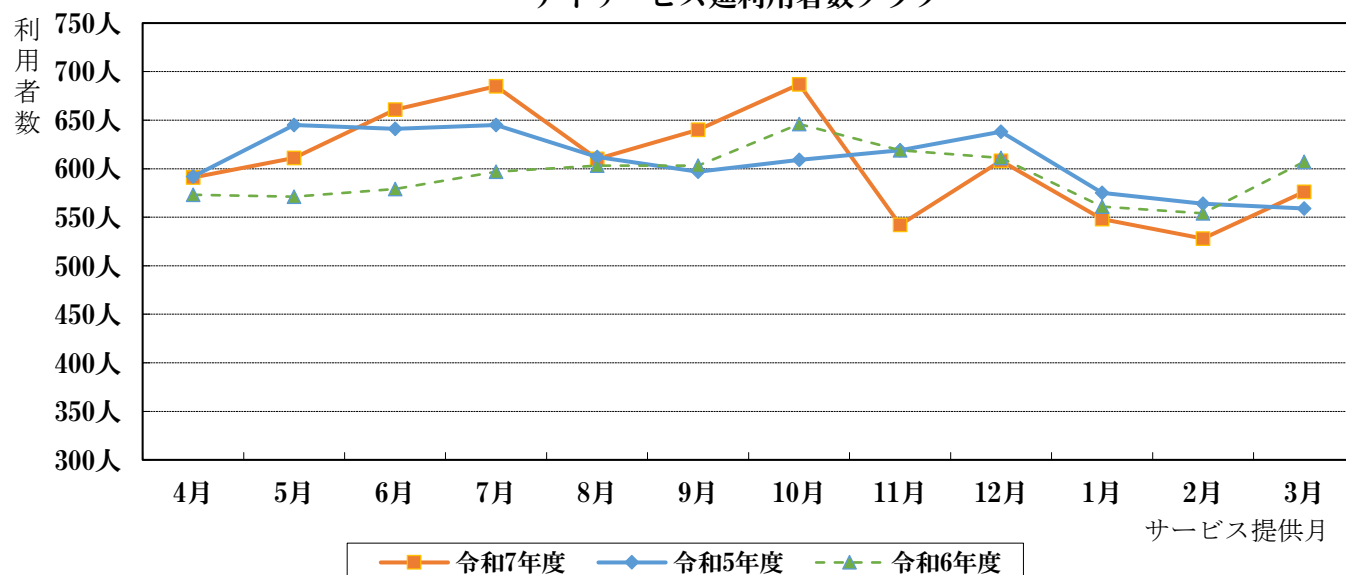


デイサービス 要介護度別延利用者数

単位（人）

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平日営業日数(日)			21	22	21	22	20	21	22	18	22	19	18	21	247
平日定員数（人）			40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
土曜営業日数(日)			4	4	4	4	5	4	4	5	4	4	4	4	50
土曜定員数（人）			20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
利用者数	事業対象者	男	4	3	4	5	4	3	5	4	4	4	3	4	47
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	4	3	4	5	4	3	5	4	4	4	3	4	47
	要支援1	男	4	4	5	4	4	5	0	0	0	0	0	0	26
		女	5	4	4	5	4	6	13	13	12	8	5	7	86
		計	9	8	9	9	8	11	13	13	12	8	5	7	112
	要支援2	男	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
		女	9	9	6	8	7	8	9	7	9	8	8	17	105
		計	18	9	6	8	7	8	9	7	9	8	8	17	114
	要介護1	男	39	57	54	53	52	52	66	55	62	40	38	33	601
		女	72	110	118	127	109	133	146	136	154	158	165	169	1,597
		計	111	167	172	180	161	185	212	191	216	198	203	202	2,198
	要介護2	男	25	19	44	45	45	65	56	39	43	27	19	24	451
		女	214	176	168	166	165	175	180	150	177	159	149	177	2,056
		計	239	195	212	211	210	240	236	189	220	186	168	201	2,507
	要介護3	男	33	26	24	27	26	27	26	25	26	52	51	58	401
		女	69	85	87	134	101	101	111	71	71	57	57	62	1,006
		計	102	111	111	161	127	128	137	96	97	109	108	120	1,407
	要介護4	男	24	21	16	15	9	0	0	0	0	0	0	8	93
		女	42	64	94	79	69	49	58	38	41	35	33	17	619
		計	66	85	110	94	78	49	58	38	41	35	33	25	712
	要介護5	男	8	9	16	17	15	16	17	4	9	0	0	0	111
		女	34	24	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	79
		計	42	33	37	17	15	16	17	4	9	0	0	0	190
	合計	男	146	139	163	166	155	168	170	127	144	123	111	127	1,739
		女	445	472	498	519	455	472	517	415	464	425	417	449	5,548
		計	591	611	661	685	610	640	687	542	608	548	528	576	7,287
稼働率（%）			64.2	63.6	71.8	71.4	67.8	69.6	71.6	66.1	63.3	65.2	66.0	65.5	67.0
前年比（%）			103.1	107.0	114.2	114.7	101.2	106.1	106.3	87.6	99.5	97.7	95.3	94.9	102.3

デイサービス延利用者数グラフ



1 事故件数

（単位：件）

	転倒・転落	誤嚥	異食	誤薬	車輛事故	その他	合計
特別養護老人ホーム	2			2			4
ショートステイ	1						1
デイサービス							0

※保険者への報告を行った介護事故の発生件数を記載しています。

2 寄せられたご意見・苦情

受付日	区分	申出人	内容	対応
4月16日	特別養護老人ホーム	入居者本人	「さっき他の人が自分の部屋に入ってきた。今後は入ってこないように何か対策してほしい」とお客様よりご要望がありました。	フロアリーダーより謝罪すると共に、他のお客様が居室に入らないよう、対策案をいくつか提案しました。
4月16日	特別養護老人ホーム	入居者本人	「簡単でいいので、リハビリが可能か教えてほしい。一部の職員の言葉遣いや訪問時の態度を改めてほしい。医療が整った施設を探したいので相談にのってほしい」とお客様よりご相談がありました。	リハビリについては、専門的なことはできないができることを説明、職員の言葉遣い、態度については、職員で周知し改善していく事を伝え、改めて謝罪しました。
4月16日	デイサービス	利用者本人	「音楽療法の時、途中で2.3人のご利用者が世間話をしていたため、音楽の先生も職員も話に参加してしまい、音楽療法の半分以上が世間話になってしまった。今後は音楽の先生、職員共に話に加わらず、音楽をやってほしい」と、お客様より要望がありました。	ご本人様に、音楽療法の取り組みの説明をさせていただくと共に、謝罪しました。
4月24日	特別養護老人ホーム	匿名	面会を1回2名まで、15分に制限されているが、遠方の孫などを連れていけないしすぐに終わってしまう。面会の人数及び時間を緩和してほしい。	面会の制限は解除いたしました。
5月14日	ショートステイ	入居者本人	「利用時に、先に入居されているお客様が自分と知り合いだったようで、抱きついて喜んでくれましたが、実際はそれほど深い関係ではないので、今後も続くようなら、ショートの利用をやめたい」とお客様よりご相談がありました。	ご家族様に連絡し、状況を説明しました。今後は、利用時にお会いする機会をなるべくつくりたい様に対策しました。

受付日	区分	申出人	内容	対応
5月31日	特別養護老人ホーム	入居者本人	①ある入居者が行ったり来たりするのをやめさせてほしい、ご飯の時だけでもなんとかしてほしい。また、いつも2時ぐらいに起きてくる音がやかましい、この前は他の人と話していてそれもやかましかった。②（別の入居者について）あのおばあさの声がやかましい。	居室や食堂の行き来や話し声については、対応できないこともあるため、その都度説明しできる範囲で対応していく。
6月9日	特別養護老人ホーム	入居者本人	「昨日の夜、他の入居者が部屋に入って来た。おい！なにをしてるだ！と言ったら私物を持って出ていった」「怒れてしまって眠れなくなった」何度も同じことがあるのでどうにかしてほしい、とお客様よりご意見がありました。	相談員よりご本人様、ご家族様に謝罪いたしました。夜間帯はお部屋に施錠をし、必要であれば居室の移動も検討予定であることをお伝えし、ご理解をいただきました。
6月18日	デイサービス	匿名	デイサービスの送迎車がセンターラインをギリギリで走っている為、車体が反対車線にはみ出し危ない。何度も見かけるので危険な運転はやめて欲しい、と電話でのご意見がありました。	匿名での電話であった為、その場で謝罪をいたしました。今後はこのようなことが無いよう、職員に教育を行い、安全運転を心掛けていきます。
7月29日	特別養護老人ホーム	ご家族	①要介護2になるかもしれないので施設を探すといわれたが相談員の対応が不親切ではないか。案内や相談援助を丁寧にしてほしい。 ②訪問調査での職員の対応の感じが悪かった。 ③本人が不安に感じるような事を言わないでほしい。 と、ご家族様よりご意見がありました。	①相談援助については、翌月上旬に介護主任と相談を行う時間を設けることとしました。 ②当該職員に確認を行い、ご家族様の気分を害してしまうような受け答えは改善するよう指導を行いました。改善が難しければ訪問調査時の職員は検討するようにします。 ③に関しては、関わる職員に確認するが状況は不明でした。ご家族様にお伝えしご理解をいただきました。
10月9日	特別養護老人ホーム	入居者本人	別の階の職員も俺の事を知らない人はいない」と職員から話を聞いた。過去にも自分の話を他でしている職員がいたので、またその人が言いふらしているのではないかと自分の知らないところで話が出回っているのは良い気がしない。お金の話を聞いてきたり、他の人の容姿について話したりしてくる。友達ではないし仲がいいわけでもないのに控えてほしい、とお客様よりご要望がありました。	当該職員からご本人様へ、軽率な発言で不快に思わせてしまった事について謝罪し、職員にはリーダーより指導をしました。

受付日	区分	申出人	内容	対応
11月26日	特別養護老人ホーム	匿名	面会に行った際、ある職員が皆様のいる前で入所されている方や他職員の事を話していたり、大きな声で職員を呼んだりしていた。老人ホームかと疑うような光景であった。さらにその職員からは強いタバコの臭いがし、広範囲まで臭いが漂っていた。このことについて検討・開示していただきたい、と匿名の方よりご要望がありました。	苦情の対象と思われる職員に、施設はお客様にとって生活の場でもある為、大きな声は控えるよう指導をしました。また、タバコの臭いは非喫煙者にはとても気になる為、気を付けるよう注意をしました。合わせて施設全体にも注意を促しました。
12月2日	ショートステイ	ご家族	今日はショートステイを利用する予定だが、迎えが来ていない。いつもの時間に準備をして待っていたが、待てど暮らせど迎えが来ないので電話をした、とご家族より苦情がありました。	送迎表に漏れがあり、遅れてしまったこととお待たせしてしまつたことを合わせて謝罪をしました。今後は再発防止に努め、送迎システムやチェック体制の見直しを検討いたします。
12月11日	特別養護老人ホーム	ご家族	先日、おやつの時間に面会に来た時、すごい便の臭いがしました。おやつをいただいている時でしたが、便が出ていることが分かったので職員さんにおむつ交換をお願いしましたが対応してもらえなかった。	確認したところ、おやつ後すぐにおむつ交換を行ったとの事でしたが、ご家族がおっしゃる通り、臭いがした状態や明らかに排便・排尿が確認できる状況であればおむつ交換をするべきであり、お客様やご家族の心配に繋がってしまうことを職員へ指導をしました。
12月11日	特別養護老人ホーム	ご家族	居室やフロアのほこりがひどい。大掃除とかは大変かもしれないが、モップとか貸してもらえれば私がやりたいくらい、とご家族よりご要望がありました。	相談員より、不快な思いをさせてしまったことを謝罪し、現状を確認しフロアや居室の清掃を行う事を説明させていただきました。綺麗や清潔を保つ意識を持ってお客様やご家族が不快な思いをしないよう配慮していきます。
12月29日	ショートステイ	ご家族	2泊3日の利用の際、一日分、日付の違う薬を持参してしまったが、家族には連絡もなく内服されていた。日付が違う薬が入っていたことを知らせてほしかった、とご家族よりご要望がありました。	日付のみの違いであり、内服薬の不足がある訳ではなかったことから、ご利用者様に内服をしていただき、連絡帳にはその旨を記載しておりました。契約時に、薬の袋には日付の記載はせず、薬の数と内容の確認のみ行う事を説明させていただいている為、ご理解とご協力をお願いしました。

受付日	区分	申出人	内容	対応
R8. 1. 22	ショートステイ	利用者ご家族	ご利用者様宅へ訪問時、12月のショートステイ利用後にご家族より確認があった木の破片についての話があった。ご家族も「知らずに破片がついた状態で、もし衣類を着せていたら、怪我に繋がりがかねない」と心配されていた。再度、対策などの説明をお願いしたいとケアマネージャー様よりご要望がありました。	12月ショートステイ利用後にご家族より木の破片についての問い合わせがあり、確認したところ、木の破片と思われた物は、畳の経年劣化により剥がれた1cm程のイグサであったことが分かった為、担当者よりご家族へ謝罪と報告を行っていました。今回ケアマネージャー様からのお話をいただき、再度、ご家族へ謝罪と対策の連絡を致しました。
R8. 2. 8	特別養護老人ホーム		ある職員が私の家のことなどプライベートの話をしてきたり、スキンシップされるのが苦痛。マスクをしないで顔のそばで喋ることもある。	所属長から当該職員に伝え指導致しました。

3 ご寄附

受領日	寄附者氏名	寄附内容	目的	区分
4月21日	厚生労働省医療用物資等確保支援地策室様	プラスチックロープ 1,500枚	利用者のため	特別養護老人ホーム
5月12日	大塚製茶株式会社様	お茶200パック	利用者のため	特別養護老人ホーム
5月21日	武田 喜久代 様	100,000円	利用者のため	特別養護老人ホーム
9月5日	JA遠州中央農業協同組合様	新米10kg	利用者のため	特別養護老人ホーム
11月13日	村松 あかね 様	柿7kg	利用者のため	特別養護老人ホーム
11月20日	株式会社メロー静岡様	クラウンメロン21玉	利用者のため	特別養護老人ホーム
12月25日	静岡県立磐田東高等学校福祉委員会様	写真立て	利用者のため	特別養護老人ホーム

4 行事等（施設入所）

名称	開催日	参加者	備考
手浴・足浴	4月中 9回	青空ユニット	
お花見散歩	4月3日	若草ユニット	
バンド演奏鑑賞	4月21日	希望者	アイミスタ様(ボランティア)
磐田市内ドライブ	4月22日	陽だまり・花時ユニット	
草原味噌汁作り	4月23日	草原ユニット	
お花見散歩	4月23日	若草ユニット	
手浴・足浴	5月中 7回	青空ユニット	
装飾物製作（ひまわり）	5月15日	若草ユニット	
ドライブ	5月18日	陽だまり・花時ユニット	アピタ磐田店
草原味噌汁作り	5月24日	草原ユニット	
散歩（鯉を見る）	6月8日	花時ユニット3名	
草原味噌汁作り	6月18日	草原ユニット	
黒ひげ危機一髪	7月1日	ショートステイ	
テレビ体操. 口腔体操	7月1日	ショートステイ	
買い物・ドライブ	7月11日	花時ユニット2名	ピアゴ 袋井店
草原味噌汁作り	7月11日	草原ユニット	
買い物・ドライブ	7月22日	陽だまりユニット2名	アピタ磐田店
ドライブ	7月23日	花時ユニット2名	ニトリ袋井店
『男はつらいよ』鑑賞会	8月2日	若草・そよ風ユニット	
ドライブ	8月6日	陽だまりユニット3名	ニトリ袋井店
創作レクリエーション	8月6日	若草ユニット	

名称	開催日	参加者	備考
買い物・ドライブ	8月17日	花時ユニット3名	ホームセンターエンチョー磐田店
草原味噌汁作り	8月20日	草原ユニット	
ひまわり作り	8月25日・29日	太陽ユニット	
花火大会	9月14日	希望者	
令和7年度敬老会・秋祭り	9月14日	全員	かき氷・ミニゲーム他
田原水車見学ドライブ	9月19日	陽だまりユニット4名	
竜洋昆虫公園ドライブ	9月22日	陽だまりユニット3名	
散歩（鯉を見る）	9月27日	花時ユニット3名	
レク・芋づくり	9月28日	太陽ユニット	
買い物支援	9月28日	花時ユニット2名	杏林堂西貝塚店
敬老会・秋祭り	9月28日	お客様+ご家族様	
買い物・ドライブ	9月30日	陽だまりユニット2名	ホームセンターエンチョー磐田店
秋祭り屋台お囃子見学	10月18日	希望者	
ボール遊び・手の体操	10月24日	草原ユニット	
ホットケーキ作り	10月29日	花時ユニット	
尺八・三味線演奏鑑賞	11月8日	希望者	磐田二三八会様(ボランティア)
ボール遊び・手の体操	11月19日	草原ユニット	
ボール遊び	11月25日	太陽ユニット	
ホットケーキ作り	11月27日	陽だまりユニット9名	
買い物・ドライブ	12月8日	花時ユニット3名	ホームセンターエンチョー磐田店
買い物・ドライブ	12月15日	陽だまりユニット3名	ニトリ袋井店
買い物支援	12月23日	若草ユニット2名	杏林堂西貝塚店
『男はつらいよ』鑑賞会	12月7日	若草ユニット5名	
クリスマス会	12月24日	全員	ツリー装飾, クリスマスケーキ製作他
手浴・足浴	12月中 19回	青空ユニット	
新年会	1月7日他	全員	ペットボトル倒し, 絵あてクイズ 他
小国神社初詣	1月21日	若草・そよ風ユニット	
新年の抱負製作	1月19日他	希望者	
初詣	1月24日	若草ユニット5名	
ボーリング遊び	1月26日	太陽ユニット	
節分・掲示物製作	2月9日・10日	太陽ユニット	
尺八・三味線演奏鑑賞	2月14日	希望者	磐田二三八会様(ボランティア)
体操・鬼退治レクリエーション	2月20日	草原ユニット	
節分・鬼退治レクリエーション	2月24日	7名	
お囃子・太鼓演奏鑑賞	3月14日	希望者	住吉町祭囃子保存会様(ボランティア)
ホットケーキ作り	3月17日	希望者	
来年度の目標・どう過ごしたいかを立てよう	3月28日	草原ユニット	
お花見散歩	3月30日	陽だまり・花時3名	

1 内部研修

日付・時期	名称・内容等
4月1日～2日	新任職員研修合同研修(法人)
4月3日～7日	新任職員実務基礎研修(施設)
4月1日～30日	動画視聴研修 s166-4 接遇
4月1日～30日	動画視聴研修 s166-7 倫理・コンプライアンス
5月1日～31日	動画視聴研修 s-27お悩み解決！これでできる機能訓練の計画とその実践①
5月1日～31日	動画視聴研修 s55相談援助が上達する研修会①
5月1日～31日	動画視聴研修 s67デイサービスにおける稼働率向上と生活相談員の役割①
5月1日～31日	動画視聴研修 s166-6認知症
5月1日～31日	動画視聴研修 s166-3感染症/食中毒の予防と蔓延防止
5月1日～31日	動画視聴研修 認知症者とのコミュニケーション法2ユマニチュード①
6月1日～30日	動画視聴研修 s156介護BCP①
6月1日～30日	動画視聴研修 s166-5虐待防止／身体拘束防止
6月1日～30日	動画視聴研修 s166-10ターミナルケア／精神的ケア
7月1日～31日	動画視聴研修 s140高齢者虐待防止～ 他人は自分の思い通りにならない～
7月1日～31日	感染症対策シミュレーション（訓練）1
7月1日～31日	動画視聴研修 s151自身の介護をふRE返ろう！①
8月1日～31日	動画視聴研修 s76職員の教育効果を高めるための基礎研修①
8月1日～31日	動画視聴研修 s166-1事故防止の知識／緊急時対応の理解
8月1日～31日	動画視聴研修 s111認知症の理解と対応①
9月1日～30日	動画視聴研修 s129ユニットケアを活かすための気付き
9月1日～30日	動画視聴研修 s164入浴介助実践研修
9月1日～30日	動画視聴研修 認知症者とのコミュニケーション法2ユマニチュード②
9月30日	B C Pシミュレーション(訓練)1 安否確認訓練
10月1日～31日	動画視聴研修 s111認知症の理解と対応②
10月1日～31日	動画視聴研修 s65スタッフがプロの介護職に成長するリーダーの関わり方
10月1日～31日	動画視聴研修 s79看取りケア研修実践編①
10月1日～31日	動画視聴研修 s166-9介護予防
11月1日～30日	動画視聴研修 s148ターミナルケアと看取りケア～医療も福祉も大切にしているのと同じ～
11月1日～30日	動画視聴研修 s52感染症の予防と蔓延防止①
11月1日～30日	動画視聴研修 s151自身の介護をふRE返ろう！②
11月20日	口腔衛生管理研修会
12月1日～31日	動画視聴研修 s139身体拘束廃止～拘束とは何を指しているのだろうか～
12月1日～31日	動画視聴研修 s156介護BCP②
12月1日～31日	動画視聴研修 s151自身の介護をふRE返ろう！③
12月23日	研究発表会【若草】
1月1日～31日	動画視聴研修 s61褥瘡予防の為の状況別ポジショニング①
1月1日～31日	動画視聴研修 s151自身の介護をふRE返ろう④
1月1日～31日	感染症対策シミュレーション2
1月1日～31日	動画視聴研修 s103虐待防止に関する理解
1月1日～31日	感染症対策シミュレーション（訓練）2
1月28日	研究発表会【花時】
2月1日～28日	動画視聴研修 s151自身の介護をふRE返ろう⑤
2月1日～28日	動画視聴研修 s51非常災害時の対応
2月26日	B C Pシミュレーション(訓練)2 備蓄食料品保管状況確認・運び出し訓練
2月1日	研究発表会【陽だまり】
3月1日～31日	動画視聴研修 s61褥瘡予防の為の状況別ポジショニング②
3月1日～31日	動画視聴研修 s151自身の介護をふRE返ろう⑥
3月5日	口腔衛生管理研修会
3月26日	研究発表会【春風】
3月17日	初任者フォローアップ研修
3月26日	研究発表会【草原】

2 外部研修

名称	開催日	出席者	主催者
介護福祉士実務者研修	7月1日～12月31日	3名	HAPPY&SMILE COLLEGE
中東遠地区特養施設長連絡会	6月26日	1名	特別養護老人ホーム明和苑
福祉・介護施設職員向け感染症対策研修	6月30日	1名	静岡県健康福祉部
生産性向上ビギナーセミナー	7月3日	1名	厚生労働省
中東遠地区特養職種別研究会（医務）	7月4日	1名	特別養護老人ホームおおすか苑
接遇マナー研修会	7月4日	1名	静岡県老人福祉施設協議会
建築物の長寿命化への取り組み	7月30日	1名	県老協西部支部
どうすればチームワークの向上に貢献できる職員になれるか	8月4日	2名	静岡県老人福祉施設協議会
生産性向上フォローアップセミナー（第1回）	8月4日	1名	厚生労働省
中東遠地区特養施設職種別研究会（事務）	8月26日	1名	東海清風園
静岡県高齢者福祉研究大会	9月3日	7名	静岡県老人福祉施設協議会
生産性向上フォローアップセミナー（第2回）	9月29日	1名	厚生労働省
認知症ケアに関わる職員の為の勉強会	10月15日	2名	磐田市立総合病院
感染症予防対策研修会	10月21日	2名	中東遠総合医療センター
本当の自立支援を促す介護技術講座	10月28日	1名	静岡県社会福祉協議会
同期の仲間と！アタマとココロのリフレッシュ	11月10日	1名	静岡県社会福祉協議会
高齢者入所施設の職員を対象とした感染予防対策	11月11日	2名	西部健康福祉センター
生産性向上フォローアップセミナー成果報告会	2月18日	1名	厚生労働省

3 防災訓練・教育

名称	実施日	参加者	備考
デイサービス防災訓練	4月19日	職員8名	
通報訓練	中止	-	新型コロナ感染者発生
消火器使用訓練	6月24日	職員13名	
災害時情報共有システム使用訓練	7月6日	職員1名	
地震防災訓練	7月31日	職員14名	
情報収集伝達訓練	8月19日	職員7名	
安否確認訓練	9月30日	職員22名	
総合防災訓練（夜間想定）	11月4日	職員11名, 利用者20名	
防災教育	12月23日	職員16名	
消火栓使用訓練	1月15日	職員11名	

11 会議・委員会関係

1 主な委員会・定例会議

名称	開催実績
事故防止委員会	(定期)6月12日, 9月15日, 12月11日, 3月12日 (随時)3月19日, 4月25日
身体拘束適正化委員会	6月12日, 8月7日, 11月13日, 2月12日
褥瘡予防委員会	6月12日, 8月7日, 11月13日, 2月12日
感染対策委員会	(定期)5月19日, 7月10日, 10月7日, 1月14日 (随時)4月10日, 4月23日, 4月30日, 5月6日, 5月7日, 5月12日
B C P委員会	4月10日, 7月10日, 10月9日, 1月15日
虐待・ハラスメント防止委員会	5月15日, 8月7日, 11月13日, 2月12日
優先入所検討会	4月17日, 5月7日, 5月19日, 5月30日, 6月25日, 8月25日, 11月3日
栄養ケアマネジメント会議	毎月第2木曜日開催
安全衛生委員会	毎月第2木曜日開催
職員会議	毎月第2木曜日開催

1 介護実習・体験学習の受入

団体名等	人数	受入日（期間）
静岡県立磐田北高等学校3年生	2名	6月17日～7月17日
静岡県立磐田北高等学校1年生	4名	7月8日～7月16日
静岡県立磐田西高等学校2年生	5名	9月11日
磐田市立城山中学校2年生	3名	10月15日～10月16日
静岡県立横須賀高等学校2年生	1名	2月2日～2月6日
静岡県立袋井特別支援学校	1名	2月24日～2月27日

2 ボランティアの受入

団体名等	活動内容	活動日	備考
アイミスタ様	バンド演奏	4月21日	
磐田二三八会様	尺八・三味線 演奏	11月8日	
磐田二三八会様	尺八・三味線 演奏	2月14日	
住吉町祭囃子保存会様	お囃子演奏. 太鼓体験	3月14日	

3 地域等への職員派遣

派遣先	活動内容	活動日	備考
和口高齢者サロン「和楽の会」	出張デｲサービス	5月23日	和口公会堂
認知症介護実践者研修	講師	6月5日	浜松市福祉交流センター
認知症介護実践者研修	講師	7月17日	掛川市生涯学習センター
認知症介護実践者研修	講師	8月1日	掛川市生涯学習センター
認知症介護実践者研修	講師	8月21日	掛川市生涯学習センター
認知症介護実践者研修	講師	8月29日	掛川市生涯学習センター
認知症介護実践者研修	講師	9月4日	掛川市生涯学習センター
認知症介護実践者研修	講師	9月18日	掛川市生涯学習センター
認知症介護実践者研修	講師	10月31日	掛川市生涯学習センター
「介護の日」啓発キャンペーン	記念品配布	11月11日	浜松駅
認知症介護実践リーダー研修	講師	11月26日	浜松市福祉交流センター
認知症介護実践リーダー研修	講師	12月10日	浜松市福祉交流センター